

## 演題 41. 当院における時間外検査の現状

～一般検査～

○西周裕晃（公立長生病院）

【はじめに】当院の時間外における一般検査の現状について報告する。

【当院の概要】病床数は231床、検査技師数は9名で時間外検査は二次救急当番日のみ当直、それ以外の日はオンコール制となっている。

【尿検査の現状】時間外の尿検査は日勤帯と同様に行っている。特に小児科や入院時の場合、尿沈渣は必須となっている。尿沈渣は尿沈渣検査法2000に則って報告している。もし分類困難な細胞成分に遭遇した場合は「疑い」や「可能性」をつけて報告し、その旨を臨床医に伝えている。更に、沈渣に保存液を加えて冷蔵保存しておき、後日一般検査専任者が再度鏡検し、追加報告を行うようにしている。また、時間外における細胞成分の誤認防止や分類困難を減らすため、アトラス等の書籍はいつでも閲覧できるように顕微鏡から手の届く所に置くことや回腸導管の患者リスト等を作成している。

【髄液検査の現状】時間外の髄液も日勤帯と同じ検査項目を行っている。実施項目は、外観、蛋白、糖、細胞数、細胞分類、更に細菌性髄膜炎が疑われる場合はキットを用いた髄膜炎起因菌抗原検査も行っている。分類困難な細胞はサムソン液を加えた検体を冷蔵保存し、後日専任者が追加報告をしている。

【まとめ】当院において時間外に日勤帯と同様の検査が可能である理由は、技師全員が新人の頃に一般検査の日常業務を経験しており、現在も検体検査の技師は午後の一般検査を日替わりで担当し、日頃から尿や髄液に触れていることと思われる。時に細胞分類が困難な場合は、検体保存することで専任者による追加報告ができ、この検体を用いて指導、教育も可能となる。

連絡先：0475-34-2121